

成果の説明書

(氏名) 谷川卓	(学部) 経済学部
1 重要事項 【研究活動】 ヒューム主義的形而上学を追究する研究に引き続き取り組んでいる。昨年度から今年度前半にかけてはとくに穴の存在論的身分をヒューム主義的形而上学の観点から明らかにする研究に取り組んだ。その成果をまとめた論文は査読を経て学会誌に掲載されている。今年度後半に力を入れたのは様相論の研究である。いまは形而上学的必然性と論理的必然性の区別にまつわる問題に関心をもっており、その文献調査を中心に研究を進めた。 論文 ・「穴の存在論の哲学的意義」, 『科学哲学』 54(2), pp. 51-70, 2022 年. 【教育活動】 「哲学」および「社会思想」の授業では数回のグループディスカッションを行っているが、今年度はいまだコロナ禍のなかにあることを考慮して、直接的には対話をしない形でのやり方 (Teams 等を利用) を模索した。	
2 その他の事項 【学会活動】 論文査読 2 件 【学内】 教養教育委員 日本語部会 自己点検・評価委員 高崎経済大学経済学会学生懸賞論文査読	
3 次年度以降の計画・抱負 ヒューム主義形而上学を追求する研究に引き続き取り組む。 教育面では、グループディスカッションのやり方についてさらに検討する。	